特集 アフターコロナの経済・金融市場

アフターコロナのESG投資

中　空　麻　奈 CMA・CIIA

目　　次

1．はじめに
2．コロナ禍における投資への影響とESG
3．ショートターミズムから中長期投資へ
4．企業の取り組み
5．国の関わりの変化
6．これからのESG投資

気候変動、SDGsに進んでいたサステナブルファイナンスの流れが、コロナ禍で一気に加速したといえる。投資家・企業・国の動きのいずれもが変化し、後押しする格好にもなっている。それぞれの動向をみていくが、投資家の観点からは株式と債券の違いにフォーカスする、海外中央銀行の投資戦略を比較するなど、できるだけ具体的なESG投資の考察を心がけた。サステナブルファイナンス市場が今後さらに拡大するために何が必要かも整理した。

1．はじめに

2015年12月、パリで開催されたCOP21にて、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとしてパリ協定が採択されて以降、もとより世界の流れは気候変動、持続可能な開発目標SDGsに進んでいた。しかし、2020年初からのコロナ禍がさらにその流れを後押しすることになったことはいうまでもない。菅総理が「我が国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言いたします」と所信表明をした傍らで、バイデン氏が米国新大統領に選出され、一気に環境・エネルギー問題に取り組むことになることがはっきりしてきた。前のめり気味だった欧州、米国との差を明確にするために欧州寄りの政策を取ってきた中国に、これまで二の足を踏んでいた日米が加勢することにより、気候変動、SDGsへの世界の流れは間違いなく加速する。そうした動きのすべてをフォローすることは難しいが、今回は持続可能な社会を目指す資金の流れであるサステナブルファイナンスの現状をできるだけ幅広にみていくことにしたい。

中空　麻奈（なかぞら　まな）
BNPパリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長チーフクレジットストラテジスト、チーフESGストラテジスト。1991年慶應義塾大学経済学部卒業。同年野村総合研究所に入社、野村アセットマネジメント、モルガンスタンレー証券、JPモルガン証券を経て、2008年BNPパリバ証券にクレジット調査部長として入社し、2010年に投資調査本部長、2020年２月より現職。財政制度審議会起草委員、税制調査会メンバーなどを務める。